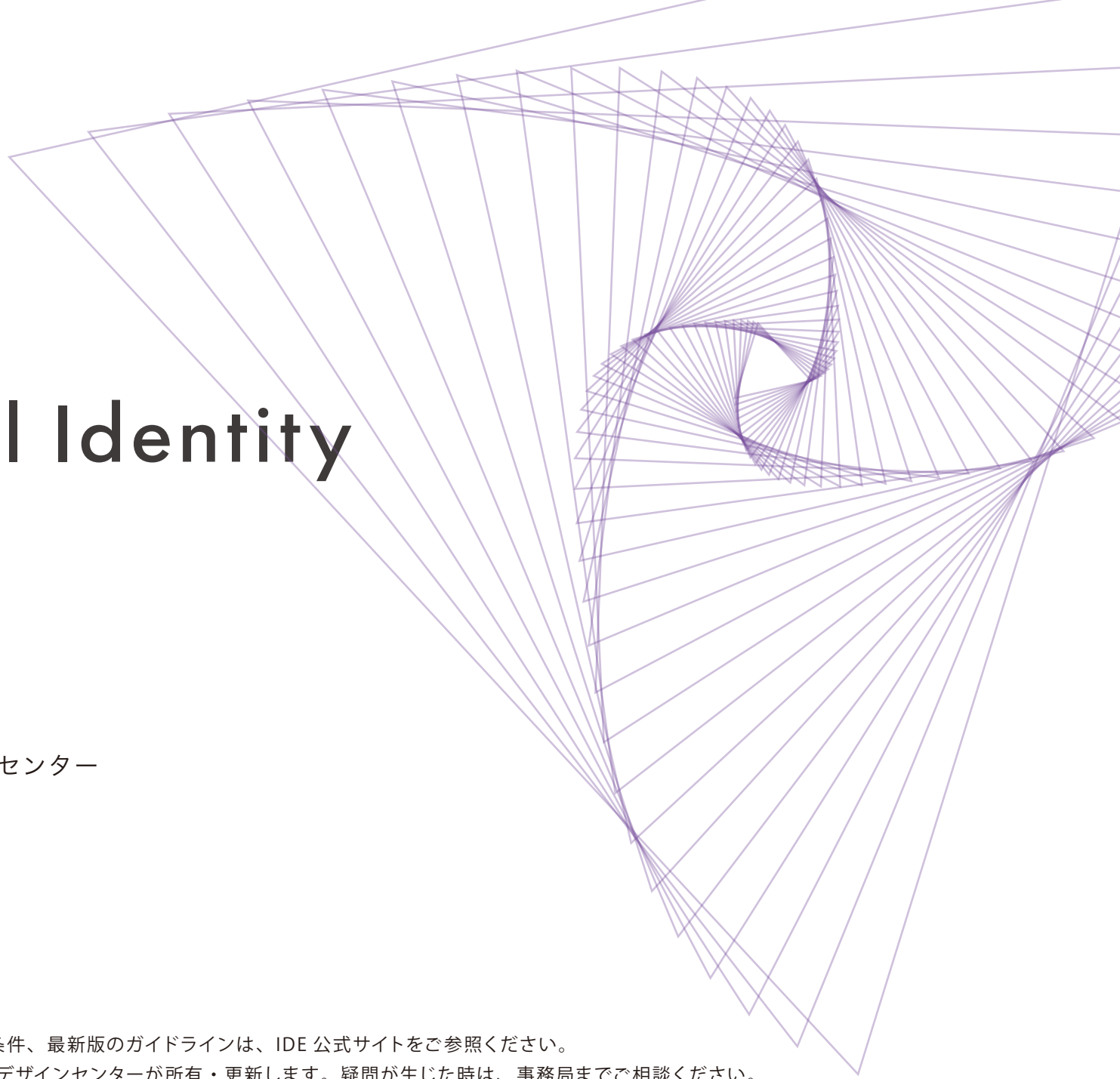




IDE Visual Identity

IDE VI ガイドライン

2026.04.20

一般社団法人 日本医療デザインセンター

原田 泰 / 桑畑 健

※ロゴデータのダウンロード、詳細な使用条件、最新版のガイドラインは、IDE 公式サイトをご参照ください。

※本ガイドラインは一般社団法人 日本医療デザインセンターが所有・更新します。疑問が生じた時は、事務局までご相談ください。

はじめに



本ガイドラインは、IDE（Integrative Design Experience）というブランドを、長く、美しく、育み続けるための指針です。

IDE は、2026 年 11 月、鎌倉から始まる医療の実装プラットフォームの運動体です。議論から実装を、知識から知恵を、年に一度の集まりから 365 日の実践を生み出します。

この運動を視覚的に支えるのが VI（Visual Identity）です。

「運動体」は、広報物や SNS など対外的な場面では「ムーブメント」「この運動」「IDE」と言い換えて使います。思想を深く語る場面でのみ「運動体」を用います。

VI は、単なるロゴの使用規則ではありません。ブランドが何を語り、何を守り、何を変えていくのかを定義する「思想の器」です。IDE を一緒に創り上げていく皆様との対話を通じて、ガイドラインは進化していきます。

1. VIの基本原理 - ロゴの2層構造

IDEのロゴは、「IDE マスターロゴ」と「IDE 年度地域版ロゴ」の2層で構成されます。

1-1. IDE マスターロゴ（不変の核）

文字：「IDE」（Futura Bold）

三角形：左向き・グレー

用途：日本医療デザインセンターの通年事業／ブランド全体／モノクロ環境／年度・地域に縛られない資料



1-2. IDE 年度地域版ロゴ（可変の周縁）

継承：マスターロゴの構造

追加：年度（2026）／地域名（KAMAKURA）／その年の配色

用途：イベント広報全般／公式サイト／契約書類／会場物



2. ロゴのコンセプト

このロゴは事務局が管理し、複製やカスタマイズは行いません。ここではロゴに込められた意味のみを記します。

2-1. 三角形の向き

三角形は左向きを基本とします。受け手に開かれた方向、内省と根源への回帰を象徴します。

2-2. 三角形から生まれる多様な意味

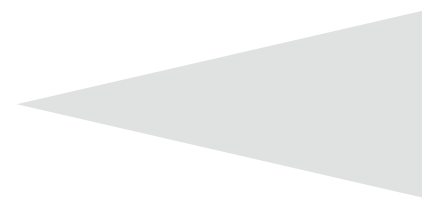
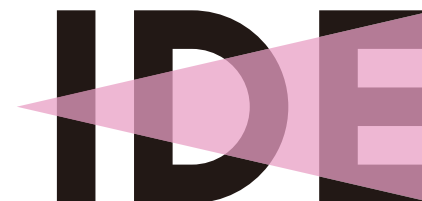
ロゴの三角形は、ひとつの意味に閉じません。

- ・ 旗：掲げて集まる場所の象徴
- ・ 光：見えなかったものを照らす
- ・ ページの角：次の章へ進む
- ・ 開かれた扉：新しい領域への入口
- ・ 三角形：IDE の 3 要素（Integrative・Design・Experience）
- ・ 境界：生と死、昼と夜、個と地域の境目

意味の固定を避けることで、使う人・見る人それぞれの解釈が生まれます。

2-3. 文字と三角形の重なり

「IDE」の文字と三角形は、分離不可能な一体です。三角形は背景でも装飾でもなく、文字と「共に在る」関係にあります。この重なりが Integrative（統合）の視覚化です。



3. タイポグラフィ

3-1. 基本フォント：Futura

Bold / Heavy：IDE 本体、年度・地域名

Medium / Book：補助テキスト

Futura はバウハウスの思想を背景に持つ、幾何学的で越境的な書体です。三角形のロゴと同じ原理から生まれています。

3-2. 和文フォント

見出し：游ゴシック Bold / ヒラギノ角ゴ W6～W7

本文：游ゴシック Medium / ヒラギノ角ゴ W3～W4

明朝体は原則使用しません。

Futura PT Heavy

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

0123456789 !@#\$%&*()_+ -=[]{}|;:'",.<>?/

Futura PT Book

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

0123456789 !@#\$%&*()_+ -=[]{}|;:'",.<>?/

游ゴシック Std B

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
なにぬねの はひふへほ まみむめも やゆよ らりるれろ わをん
アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
ナニヌネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤユヨ ラリルレロ ワヲン
0123456789

游ゴシック Std R

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてと
なにぬねの はひふへほ まみむめも やゆよ らりるれろ わをん
アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
ナニヌネノ ハヒフヘホ マミムメモ ヤユヨ ラリルレロ ワヲン
0123456789

4. カラー

4-1. マスターロゴのカラー（不変）

文字：黒／三角形：グレー／背景：白または黒

4-2. 年度地域版のカラー（可変）

- ・土地から導く：開催地の文化・歴史・自然と対話して決める
- ・2色の重なり：文字色＋三角形色の2色構成を維持
- ・彩度は高め：ただし蛍光色は避ける
- ・黒と相性が良いこと：会場サイン・ポスターで黒地に載せるため
- ・既存カテゴリーに縛られない：「医療系だから」で選ばない／避けない

4-3. 次回以降の継承

1. 開催地の文化・歴史・自然から、象徴的な2要素を抽出する
2. それぞれを色に変換する
3. 2色が重なる構造を維持する
4. 配色の物語を明文化する



IDE 2026
KAMAKURA



IDE 2026
KAMAKURA



5. IDE2026 KAMAKURA のカラーコンセプト

各回の配色には物語を添えます。単なるバリエーションではなく、開催地との対話の記録です。

IDE 2026 KAMAKURA の物語

紫は、鎌倉の精神性から生まれています。

源氏、北条氏、鎌倉仏教の系譜の中で、紫はこの地の深みを表してきました。

紫はまた、「境界の色」です。昼と夜、生と死の境目に現れる色。

マゼンタは、鎌倉の生命性から生まれています。

桜、朝焼け、源氏の紅旗。華やぎと情熱、そして「描ける」という能動性。

紫の上にマゼンタが重なります。

深い問いと、光のさす方向。

静けさと華やぎ。

「さいご」の重さと「描ける」の意志。

紫からマゼンタへ。

深く問い、対話を重ね、光を描いていく。

この色の重なりは、そのプロセスそのものです。

IDE 2026 KAMAKURA の配色

紫（文字）：鎌倉の精神性／源氏・北条氏・鎌倉仏教の系譜／境界の色マゼン

タ（三角形）：鎌倉の生命性／桜・朝焼け／「描ける」の能動性

2色の重なりから、「さいご」の深さと「描ける」の軽やかさが同時に生まれます。



6. IDE2026 KAMAKURA のロゴバリエーション



IDE2026
KAMAKURA

PRIMARY (主)

白地／紫ベース／三角形マゼンタ

公式サイト／プレスリリース／パンフレット／名刺



IDE2026
KAMAKURA

NIGHT (夜)

紫地／白抜き

ポスター／会場バックパネル／動画



IDE2026
KAMAKURA

DAY (昼)

マゼンタ地／白抜き

SNS／派生イベント／若年層向け



IDE2026
KAMAKURA

FORMAL (格式)

白地／紫ワントーン

後援書類／学会／官公庁



IDE2026
KAMAKURA

MONO-POSITIVE

白地／黒文字／グレー三角形

モノクロ印刷／FAX／スタンプ



IDE2026
KAMAKURA

MONO-NEGATIVE

黒地／白抜き／グレー三角形

動画エンドカード／Tシャツ

7. 三角形の可変頂点と Human-Centered

7-1. 可変頂点

インフォグラフィックや概念図において、三角形の3頂点は固定されません。プロジェクトごとに、統合すべき領域が頂点に置かれます。

- ・ IDE 2026 KAMAKURA：医療・行政・企業
- ・ 別のプロジェクト：医療・教育・福祉
- ・ 別の場面：医療・デザイン・テクノロジー

7-2. 中心の Human

3頂点の中心には常に Human（人）が置かれます。外周は文脈から生まれ変わりますが、中心軸は不変です。

表現印象点（ドット）最もミニマル円温かみ人型シルエット直接的文字
「Human」概念的

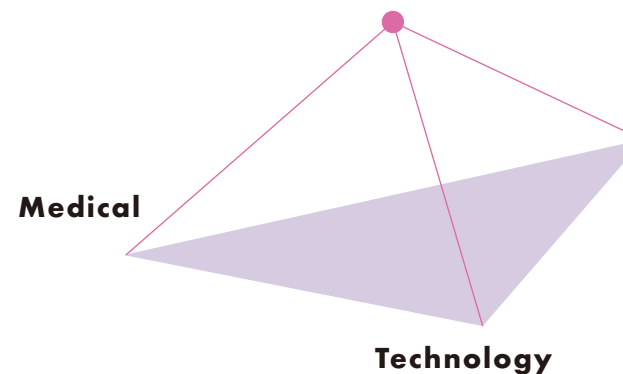
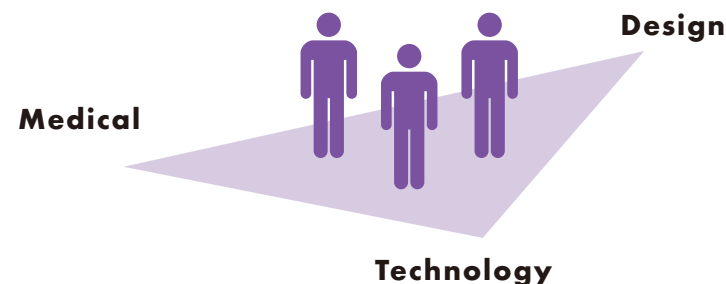
7-3. 「市民」という言葉を使わない

医療者も企業人も教育者も、全員が市民です。「市民」を他のセクターと並列に置くと構造が自己矛盾します。代わりに役割ベースの言葉（医療・介護・福祉・行政・企業・教育・デザイン）を使い、その中心に Human を置きます。

6-4. ロゴとインフォグラフィックの役割分担

ロゴ：旗印。思想を詰め込まない。

インフォグラフィック：可変頂点と中心 Human を明示する場。



IDE 2026 KAMAKURA

IDE の VI は、完成された記号ではありません。

運動とともに使い込まれ、土地とともに色を纏い、
文脈とともに意味を深めていく、開かれた装置です。

旗のように掲げられ、

光のように照らし、

扉のように開き、

ページのように、次の章へとめくられていく。

2026 年 11 月、鎌倉から。

お問い合わせ

日本医療デザインセンター

info@mdc-japan.org